



17日の夜、帰途に就こうと駐車場へ向かうと、バレーボールのスポーツ少年団の子どもたちが「校長先生！」と駆け寄ってきました。前髪を汗でぬらして、満面の笑みで。翌日から夏休みと言うこの日、子どもたちのわくわく感は最高潮なのでしょう。「よい夏休みを。」は、この日しか味わうことのできない至福の言葉です。

よい夏休みを

この日の終業式では、校長式辞として、挨拶上手な子どもたちに次の話をしました。

私は、この1学期、みなさんの元気な挨拶に元気をもらいました。児童会役員の「名前呼び挨拶運動」で、元気な挨拶が学校いっばいに広がりました。

学校だけではなく、地域の方も、みんなの挨拶で笑顔になりました。

6月11日、観音寺のある小学校で会があった時に、一人の校長先生が言ってくれました。「豊中小学校の子どもは礼儀正しいですね。私は、11号線を通って学校に行っているんですが、横断歩道で車を止めると、子どもたちがいつも挨拶をしてくれるんですよ。しかも、右と左と、両側に。」

その校長先生の嬉しそうな顔を見ると、私も嬉しくなりました。

すると、その数日後、6月17日にも嬉しい話を聞きました。別の会に出ている時に、高松に勤めている方が、こんなことを言ってくれました。

「豊中小学校の子は、ええ子やなあ。横断歩道で車を止めたら、急いで渡り、渡り終わったら、振り向いてお辞儀をしてくれるんや。」

そしてさらに驚いたことがありました。6月19日の朝、朝ご飯を食べていると、娘が話しかけてきました。

「お父さん、豊中小学校の子はすごいなあ。」

「どしたん？」と私が尋ねると、「私が横断歩道で車を止めると、『ありがとうございます。』と大きな声で言うてくれるんで。」とのことでした。ですから私は、「そうやろう。ええ子やろう。」と自慢しておきました。

そして、式辞を次の言葉で締めくくりました。

そんな挨拶上手の皆さんですから、夏休みには、地域の方ともきっとたくさんの挨拶を交わすでしょう。家族とも、たくさんの挨拶を交わすと思います。「おはよう」「おやすみ」「ありがとう」「いってらっしゃい」「ただいま」「お帰り」……。

でも、家族と決して交わしてほしくない挨拶が一つだけあります。何だか分かりますか。

それは、「さようなら」です。夏休みは楽しい反面、交通事故や水の事故など、命に関わる危険もあります。今、元気なみなさんが、何か悲しい出来事で命を失い、涙ながらに「さようなら」と言って見送らなければならない。そんなことには絶対になってほしくありません。

もし、友達と大げんかをして、いつかは仲直りできるかもしれませんが、宿題を忘れても、頑張れば取り戻すことができます。でも、亡くなった命だけは取り返しがつきません。

2学期の始業式に持ってくるもの、絶対に忘れてはいけないものは、あなたの「命」です。みなさんが、9月1日に元気に登校してくることを楽しみにしています。

9月1日の登校を待っています。